
新志パラレル

ウニ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

新志パラレル

【Nコード】

N7228X

【作者名】

ウニ

【あらすじ】

新志芸能界パラレルです

新志が好きすぎて、思うがままに書いた駄文です。

原作重視、新蘭派はご遠慮ください。

あと誹謗中傷はやめてください。

本気でへこみます。

第1話（前書き）

新志が好きすぎて、思うがままに書いた駄文です。

原作重視、新蘭派はご遠慮ください。

あと誹謗中傷はやめてください。

本気でへこみます。

第1話

「蘭 俺はお前が好きだ」

「私も新一が好きだよ。だからずっと待ってたよ」

そして二人は離れていた時間を取り戻すかのように、抱きしめあった。

「ハイ、カット!」

監督の撮影終了の言葉に静まり返っていた現場が歓声と拍手がこだました。

ここは帝丹撮影所の第2スタジオで、平均視聴率20%をとる人気ドラマ『名探偵工藤新一』の撮影現場でもある。

たった今、主人公とヒロインの告白のシーンを撮り終えたところである。

「これで『名探偵工藤新一』クランクアップです。主演の工藤さんと毛利さん、お疲れ様でした。」

A Dが現場全体に届くように大声で撮影終了を伝えると、待ってましたと言わんばかりにヘアメイクや衣装係のスタッフが主演の二人に花束と拍手が贈られた。

「初主演ドラマだったので最初は戸惑うこともありましたが、無事にクランクアップ出来たのも共演者やスタッフの皆さんのお陰です。ありがとうございました。」
少年はそついうと深々とお辞儀をした。

少年の名は工藤新一 17歳 「名探偵工藤新一」の主演で、今を時めく人気実力派若手俳優である。

約半年に及ぶ撮影を乗り切ったことの満足感で新一は一杯だった。

「それでは打ち上げは明日の午後8時から『ジョンソン』です。皆さん時間厳守をお願いします。」

「はい」「OKです」などあちらこちらから返事が返ってきた。

「工藤さんは絶対に遅れないくださいね。主役なんですから」と A Dが未だに満足感で一杯の新一に念をおして言う

「えっ あっ・・・分かってますよ。はははは」

「絶対に聞いてなかつたですよね」

A Dが半分呆れながら新一を問い詰めると

「そりゃそつやろ。初主演のプレッシャーで押しつぶされながら、

高視聴率を叩き出して、要約解放されたんやから。気が抜けるのも当たり前やる」

新一を問い詰めていたADの肩に腕を置いて「なあ工藤」と笑顔で新一に話しかけたのは、服部平次だった。

平次の言葉にADは「すいません。」とさっきとは打って変わって新一に謝罪をした。

「いいですよ。気にしてませんし、半分は当たってますから。それより向こうでディレクターが呼んでますよ。」

「えっ本当ですか。ありがとございます。」と礼を言いながら去っていくADを見送ると、新一は正面に立つ笑顔の平次に向かって

「バー口。誰がプレッシャーで押しつぶされながらだよ。変なこと言うなよな。しかも何でここにいんだよ。お前の出番は先週で終わっただろ」

新一は先ほどの好青年風の話し方とは打って変わり、17歳の少年らしい砕けた話し方で返した。

「何言うとんねん。主役がクランクアップしたちゅうのに、友人兼共演者として祝いの一言でも言いに来たろという優しい心遣いやないかい。」

平次はそう言うときョロキョロと何か周囲を見回した。

そんな平次の様子に、なんとなく彼がここに来た理由が分かった新一は

「毛利さんなら次のドラマか映画の打ち合わせとかで、さっき帰ったぞ。残念だったなあ服部」
ニヤリと笑いながら言う

「ええ〜なんやて。毛利ちゃん帰ったんかい。来た意味ないやん」
「やっぱり、そっちかよ」
「当たり前や。毛利ちゃんのメアド聞こうと思って、わざわざ来たの」

服部平治 17歳 このドラマで西の名探偵役として出演していた。父親は大物時代劇俳優で、2世タレントして時代劇を中心に活躍している。

芸暦は3歳から子役として活躍しており、時代劇をやっているためか殺陣、茶道、華道、着物の着付けは完璧にでき、しかも幼い頃から大人、特に女性に囲まれた世界にいたせいか女性を口説くのが生きがいとなっている。

そのため各芸能事務所は女性タレントには『服部平次を見るな、話すな、聞くな』とどこかのお猿さん状態になるよう指示しているのが、この業界での暗黙の了解になっている。

だが本人はそれを知らないのか、暇があれば今のように携帯の番号やアドレスを聞きまわっている。

「お前、そのうちスタジオ出入り禁止になるぞ」

新一はまだブツブツ不満を言う平次に呆れながら、花束を肩に乗せスタジオをあとにした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7228x/>

新志パラレル

2011年10月19日02時04分発行